

重複障害教育総論

単位数	履修方法	配当年次
2	R or SR	3年以上

科目コード **EG4732** 担当教員 **鳴海 宏司**



※2017年11月20日までに履修登録し、2019年3月までに単位修得してください。

※RorSR科目ですが、2016年度以降スクーリングは開講いたしません。

※2014年度までの入学者と、2015年度2・3年次編入学者・科目等履修生、2016年度4月生3年次編入学者のみが履修登録可能です。

■科目の内容

近年、特別支援学校の児童生徒の障害の実態は重度・重複化し多様化してきているといわれています。文部科学省の調査によると、平成21（2009）年5月現在、特別支援学校に在籍する児童生徒の4割強は重複障害を有しています。この場合の重複障害とは、学校教育法施行令第22条の3で規定されている5障害（視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱）の中の2つ以上を併せ有していることを意味しています。

※教育課程の編成に当たっての「重複障害」については、前述の5障害に加えて言語障害や情緒障害等を含めて考えていとされています。

ところで、平成21（2009）年3月に告示された特別支援学校小・中部学習指導要領の中に「重複障害者等に関する教育課程の取扱い」（第1章第2節第5）という項がありますが、これを読んで分かることは、ここで述べられている「重複障害者」の障害をかなり重いと想定しているということです。たしかに、近年の特別支援学校には、常時医療的ケアを必要としている児童生徒をはじめ、呼吸器系に障害を抱えている児童生徒、摂食機能に障害を抱えている児童生徒等、障害がきわめて重い児童生徒が在籍するようになってきています。

本科目では、こういった状況を受け、障害が重くかつ重複している児童生徒の教育、いわゆる重度・重複障害教育について総合的に学んでいくこととします。主な内容としては、重度・重複障害の主な原因、重度・重複障害児童生徒の臨床像、実態把握の在り方、教育の目的・内容・方法等になります。

■到達目標

- 1) 重度・重複障害児について発達の側面と行動的側面から説明できる。
- 2) 障害の重い子どもの実態把握をするときの基本姿勢を説明できる。
- 3) 障害の重い子どもの教育の目的は何か説明できる。
- 4) 障害の重い子どもの教育の内容、方法を説明できる。

■教科書

大沼直樹著『重度・重複障害のある子どもの理解と支援』明治図書、2009年

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	重複障害教育の始まり	ヨーロッパと我が国での重複障害教育の黎明期を知り、その後、この教育がどのような道をたどったか理解する。 キーワード：イタール、梅津八三 など	当時不可能とされていた盲聾教育にどのように取り込まれ出したか調べてみてください。
2	障害の重度・重複化と重度・重複障害児教育	「特殊教育の基本的な施策のあり方について(報告)」の内容とその後取り込まれた施策の概要を理解する。	昭和40年代当時から、特殊教育諸学校では、児童生徒の障害の重度化、重複化の傾向が見られ出していたことに注目してください。
3	重複障害の概念及び重度・重複障害児の概念	「重度・重複障害児に対する学校教育の在り方について(報告)」で提言されたこと、およびそこで語られている「重度・重複障害児」について理解する。 キーワード：発達の側面、行動的側面 など	学校教育法施行令第22条の3で規定されている5障害の程度をしっかりと押さえておいてください。
4	重度・重複障害の主な原因	原因からみた3つのタイプと、脳性まひ、酸素欠乏症について、その状態を理解する。	特別支援学校(肢体不自由)に在籍する児童生徒のうち、脳性まひの占める割合はどれくらいか調べておきましょう。
5	重度・重複障害のある子どもの教育形態	特別支援学校の中でも様々な形態がとられていること、児童福祉施設や医療関係施設等への訪問という形態もあること等を理解する。 キーワード：訪問教育、重症心身障害児 など	養護学校義務制実施(昭和54年)以降、なぜ全国的な取り組みがなされたのか考えてみましょう。
6	重度・重複障害のある子どもの教育の目的	学校教育の本来の目的はどこにあるのか、障害があるなしで何が変わるのか、あるいは変わらないのか等を理解する。	なぜ学校があるのか、学校とはなにをするところなのか、あらためてそのことを考えてみましょう。
7	重度・重複障害のある子どもの教育の主な内容	学習指導要領に挙げられている「重複障害者のうち、学習が著しく困難な児童又は生徒の教育課程の取扱い」について、その内容を理解する。 キーワード：重複障害者等に関する教育課程の取扱い、自立活動 など	自立活動の内容は、どのような要素から構成されているのか考えてみましょう。
8	重度・重複障害のある子どもの教育の意義	重度・重複障害のある子どもの教育の意義について、いくつかの観点から整理し理解する。 キーワード：過程像志向タイプ、結果像志向タイプなど	かつては義務教育の対象外だった子どもが、今しっかりと教育対象として受けとめられていることの意味を考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
9	重度・重複障害のある子どもの臨床像	かつて「重度・重複障害児に対する学校教育の在り方について（報告）」で挙げられていた発達の側面、行動的側面について、あらためて整理し理解する。 キーワード：発達の側面、行動的側面 など	発達の側面や行動的側面として述べられていることが具体的にどのような状態をいうのか考えてみましょう。
10	重度・重複障害のある子どもの実態把握① 実態把握の基本姿勢	実態把握することの意味と、そのために子どもと向き合うときのあるべき基本姿勢について理解する。 キーワード：あるがままに見つめる、ピグマリオン精神 など	あるがままに見つめ受けとめるということとはそんなに簡単なことではありません。どうしたらできるようになるか考えてみましょう。
11	重度・重複障害のある子どもの実態把握② 実態把握の具体的方法	実態把握のための情報収集とその整理、生育歴等の整理の具体的なあり方、及び保守義務の重要性について理解する。 キーワード：インフォームドコンセント、アカウントビリティー など	実態把握のための情報収集については、細かい配慮が必要です。どのような配慮が必要か考えてみましょう。
12	重度・重複障害のある子どもの実態把握③ 実態把握の基本的観点	実態把握をすすめるとき、5つの基本的観点が重要だといわれるが、その観点を整理し内容を理解する。 キーワード：健康、心理、感覚、運動、コミュニケーション など	実態把握の5つの基本的観点と自立活動の内容（6つの区分）との共通性について考えてみましょう。
13	重点目標と指導内容① 心身の健康の保持・増進	子どもの発達を促すとき、最初に取り組むべきこととして健康の保持・増進が挙げられるが、そのための指導内容を整理し理解する。 キーワード：生活リズム など	生活リズムを整えるためには何よりも保護者（主たる養育者）との連携が必要ですが、そのために留意すべきことについて考えてみましょう。
14	重点目標と指導内容② コミュニケーションの誘発と促進	子どもとかわるどんな場面でも、大人が主導するコミュニケーション場面が必要であり、そのための指導内容を整理し理解する。 キーワード：自発行動の発現 など	コミュニケーション関係をしつらえるには、目の前の子どもに心を開くことが重要です。心を開くとはどういうことか考えてみましょう。
15	重点目標と指導内容③ 探索、構成及び表現活動と日常生活の自立	外界とのかかわりが増えていくにしたがって現れてくる探索、表現活動、日常生活の自立等への道のりについて概観し理解する。 キーワード：属性の理解、身振りや発声、身辺処理など	見かけの障害の重さに惑わされないこと。子どもは何かを表現する主体であることを忘れずに見つめてください。

■レポート課題

1 単位め	重度・重複障害児とはどういう子どもか、詳しく説明してください。
2 単位め	重度・重複障害児の教育の目的とは何か、教育内容・方法としてどのようなことが考えられるか、詳しく論述してください。

■アドバイス

重度・重複障害教育を担うためには、まず、いろいろな障害種に応じた教育についての専門的知識・技術を必要としますが、それだけではなく、基礎的な医学的知識、心理学的知識、福祉・行政面に関する知識等も必要とします。ただし、この教育を担う者にとって本当に必要なのは、目の前の子どもがどんなに障害が重かろうと、可能性を秘めたかけがえのない主体であると受け止める心と目です。このことをしっかり踏まえて学習に取り組んでください。

なお、教科書はかなり分かりやすく書かれていますが、もし、分かりにくい語句があったなら後掲する参考書等にも十分に目を通し、しっかりと読み砕いた上でレポート作成に臨んでください。

1 単位め アドバイス

ここでは、「重複障害」について障害種の数や組み合わせ等のような形式的な説明は必要ありません。まず、「重度・重複障害児」がどのように概念化されてきているかまとめてみてください。教科書にも述べられているとおり、必ずしも統一された概念があるわけではありませんが、第2部第3章を読むと「重度・重複障害児」がこれまでどうとらえられてきたか分かります。また、合わせて第3部第1章も丁寧に読んでください。ここでは「重度・重複障害児」の様子が2つの側面から整理されていますので、「重度・重複障害児」とはどういう子どもか、より具体的におさえられると思います。

2 単位め アドバイス

ここでは、まず教科書の第2部第4章をしっかり読んでください。教育の目的については、障害の有無にかかわらず普遍的なものがあります。そこをしっかりと押さえた上で「重度・重複障害児」の場合を考えてください。教育内容については、教科書でも学習指導要領の「自立活動」の要点が紹介されていますが、後掲の参考図書 2)などを参考にしながら独自にまとめてくださっても結構です。なお、第3部第2章は、直接教育内容に触れている部分ではないのですが、このことを考える上でたいへん参考になることが書かれています。ここにもしっかり目を通しておいてください。

方法については、基本的には教科書第3部第3章をしっかり読むことでまとめられると思います。また、ここについても参考図書 2)に基づいて独自にまとめることができると思いますし、もし、ご自身の実践等に基づいたまとめができるのであれば是非そうしていただきたいと思います。

■科目修了試験 評価基準

100点満点で採点します。教科書で述べられていることに基づいて出題しているため、その範囲で解答されていれば、理解度（解答文章中の誤字・脱字、文章完成度を含む）に応じて60点～79点は獲得できます。参考図書や実践的な研修に基づいた知見が述べられている場合、内容に応じて加点します。

■参考図書

- 1) 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説—総則等編—』教育出版, 2009年
- 2) 文部科学省『特別支援学校学習指導要領解説—自立活動編—』海文堂出版, 2009年
- 3) 筑波大学特別支援教育研究センター／前川久男編『特別支援教育における障害の理解』教育出版, 2006年
- 4) 横田雅史・西間三馨監修 全国病弱養護学校長会編『病弱教育Q & A (part V)』ジヤース教育新社, 2003年
- 5) 飯野順子, 授業づくり研究会 I & M編著『障害の重い子どもの授業づくり』ジヤース教育新社, 2005年
- 6) 世界保健機構編『ICF国際生活機能分類—国際障害分類改訂版』中央法規出版, 2002年
- 7) 大沼直樹著『重度・重複障害児の興味の開発法—四つの感覚と四つの興味』明治図書, 2002年